受付番号：T000796
発表形式：一般演題（口演） / 3. 地域連携 / 3‐3. 患者支援、退院支援

地域連携 渉外担当の役割
～みなとまち 横浜の連携について～

今川 康正 [1)] , 鎌村 誠司 [1) 2)]
いまがわ やすまさ , かまむら せいじ
恩賜財団済生会 神奈川県病院 医療連携室 [1)] , 恩賜財団済生会 神奈川県病院 医療福祉相談室 [2)]

【目的】地域連携では、広報誌等だけでは、伝わらない情報があり、その中には、比較的重要で、コロナ対応にも繋がる情報がある。直接訪問、面談する事は確実な情報提供・収集に繋がる。さらに渉外活動を通じて、様々な連携に纏わる事例を連携室で精査し、より良い取り組みにしていく事も出来る。今回、渉外活動より得られた情報提供・収集の内容を分析考察した。

【方法】演者が担当した2021年10月～15か月間の医療機関に訪問、面談した訪問日報を分析した。面談内容を分類して地域連携、院内周知の活動に活かした。

【結果】2022年12月31日時点で、訪問先のべ回数1151回（訪問先235軒、面談数869件）であった。その内訳は、情報提供・収集720件、評価等327件、提案等43件、苦情等18件、その他であった。評価項目では、コロナ対応（発熱外来、入院対応、救急受入）が3割程度あった。済生会3病院の役割分担の評価も多くあった。一方、提案、苦情では、返書対応に関するもの等散見されたほか、救急受診の時間拡大、情報伝達の在り方、電話連絡のスキームの在り方等があった。分析内容は、医療連携室内で共有後、毎週の院長報告、毎月の医局会報告とした。また、病院の機能、役割を理解いただき紹介数を増やしていただいた開業医も数十軒ありました。

【考察】コロナ禍では、開業医の先生方も、病院のコロナ対応に関心が高く、病院のできる事、出来ない事、その理由を、丁寧に、伝えることで、よりタイムリーな情報交換が、信頼を深め、ブランドを高められる事を経験した。

【結論】プッシュ型の渉外活動を通じて、よりよい地域連携の推進に繋がる経験を活かし、医療連携室は院内外のより多くの医療スタッフ、医療機関を巻き込みながら、地域の医療、患者の医療に繋がる知見を深めていきたい。